



姉妹都市交流親善団交流体験記

中学生団員 13 名を中心に構成された三好市姉妹都市交流親善団 18 名が、10月27日から11月3日までの8日間、姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ザ・ダルズ市などを訪問しました。ホームステイを通じ、アメリカの大自然や文化に身近に触れるとともに、多くの方々とのコミュニケーションを通じて、新たな友情が生まれる貴重な経験となったようです。



一 一番印象に残ったのは、ハロウィンです。みんなでカボチャをくり抜き、ジャックオーランタンを作り、初めてでしたが上手だと褒めてくれました。「トリックオアトリート!」と言い、お菓子をもらうのも初めての経験でした。街は仮装した人で溢れていて、本場のハロウィンを体験できない思い出になりました。この派遣を終え、文化の違いを感じるとともに言語が通じなくても言いたいことを伝えようとするのが大切だと学びました。

(三野中学校 3年 黒濱 周子)

人 見知りを感じたくて、ホームステイファミリーとたくさん話すことを目標にしました。ホストファミリーは私と同じ年の女の子とお兄ちゃんがいて、初日にお土産を渡した時、すごく喜んでくれました。お別れする前日にはみんな集まってDVDを見ました。お別れが来るんだなって思ったらほんとに悲しくなりました。忘れられない思い出だったので、いつかまたダルズに姉妹全員で帰ってきたいです。お世話になったファミリー家にも本当にお礼が言いたいです。

(三野中学校 3年 大北 未紀)

英 語が伝わりにくかった自信を持って話せるようになりました。滞在中に、熱が出ましたが、ホストファミリーの皆さんは親切にしてくれました。アメリカに行く前、将来の夢がはっきり決まっていたのですが、ホームステイを通じて、その夢が看護師から国際関係の仕事へと変わりました。次は、留学できるようになりたいと思います。だから、英語の勉強をもっと頑張ろうと思います。

(池田中学校 3年 大西 皐月)

最 初は何を言っているのか分からず、不安な気持ちになりましたが、丁寧に英語を教えてくださいました。あつて、一緒に過ごすうちに、どんどん英語で話せることができるようになり、英語で通じ合えることは楽しいと感じました。ホストファミリーと過ごした5日間は、私にとってかけがえのない貴重な体験になりました。苦手だった英語が、派遣事業を通じて、だんだんと好きになっていきました。この経験を将来に生かしたいです。

(三野中学校 2年 長尾 朋美)

ダ ルズ市では、まず、家が大きいことに気がつきました。それに日本と違い、住宅が密集していませんでした。他にも、ロサンゼルスに行ったときホームレスが多かったことが印象深かったです。バスガイドさんの話では、「戦争に駆り出され、そこで大きな心の傷を負って社会に復帰できない人もいる」と言っていました。戦争が残した傷跡は想像以上に大きいと感じました。未来を担う僕たちが戦争の本当の恐ろしさを知り、平和な社会を後世へ伝えていかなければならないと思いました。

(池田中学校 3年 佐川 颯朗)

今 回の派遣で、考えるより先に行動することが大切だということを学びました。コミュニケーションをとるために自分から話かけたり、困った時に英語で質問したりすることができました。注文する時にも思ったより言葉が通じて安心しました。ハロウィンで街へ出かけて「トリックオアトリート」というとお菓子をくれます。その時に「Thank you」というと、いつも「You are welcome」と返してくれるので、みんな優しいな

と思いました。ダルズで仲良くなった人たちにもう一度会いたいと思いました。

小 さい頃から、海外に憧れていた私にとって、夢がかなって嬉しかったし、全く新しい環境での生活はとてもいい勉強になりました。人見知りですが、最初は緊張もありましたが、会話が何となくできるようになると自然と笑顔で話せるようになれました。初対面の人も緊張せずに笑顔で話すことができ良かったです。一人でホームステイをするようになって、心細かったけど、将来、独立した時のためのいい練習になったと思います。

(井川中学校 2年 山口 まりや)

何 事もチャレンジしてみる事が大切だということを感じました。派遣が決まり嬉しかったのですが、本音ではダルズの人と会話できるの不安でした。そして、いざホームステイの家族として受け入れる時、いろいろなことを話しかけられ、最初はとても緊張しましたが、何とか会話ができて、すごく嬉しかったのを覚えています。たくさんの方

を学んだり遊んだりして、この1週間は最高に充実していました。この経験を今後の生活に生かし、来年は1か月間、ダルズに行ってみたいです。

(西祖谷中学校 2年 谷口 武蔵)

出 国審査を終え、ここから不安とワクワクが入り混じった気持ちになりました。家庭では、家の中を靴で歩くことが、もったいない気がして、馴れませんでした。アメリカには、日本人より感情の豊かな人がたくさんいました。私もイエス、ノーを言えるよう心がけていました。ホームステイ先の人と思っていたほどの会話でさえも、この残念な気持ちをこれから生かしたいです。

(三野中学校 2年 釈子 智花)

ホームステイするという期待に胸を躍らせていたが、英語がちんと伝わるか不安でした。しかし、クリステイさんとフィリップさんは優しく、家の中も丁寧に説明してくれたり、時には冗談を言って和ませてくれたりして、この家庭でステイできて本当に良かったと思いました。

自分の気持ちや意志をきちんと伝えたいとけいし、身の回りのことも自分で管理したいとけいし、何事も自分で、積極的に取り組むことができるようになりました。

(三野中学校 2年 高井 紫乃)

本 場の英語は日本の授業で習うものと全然違うということがありました。理科の実験でも周りに飛び散るような実験をしたことがないし、音楽の授業でもギターやドラムは使わないので、違いを知りました。また、ハロウィンのことや、私の学校の話や家族の話もたくさんしました。私はこの経験を生かして、勉強してもっと英語ができるようになり、自信を持てるようになりたいです。そして、来年は1か月ダルズに行くように頑張りたいです。

(池田中学校 2年 明石 流奈)

不安でいっぱいだったホームステイでしたが、積極的に関わろうと知っている単語やジェスチャーで悪戦苦闘すると、ホストファミリーが優しく接してくれて、安心して過ごすことができました。私が一番印象に残っているのは

コミュニケーションでの日本語の授業です。私たちは英語で学生は日本語、お互い自分たちが思っていることを伝えようと頑張りました。今回の交流では、英語だけでなくいろいろな文化の違いなども学べたので、とてもいい経験ができました。

(三野中学校 2年 小笠原 諒)

成 長を実感したのはリスニングで、会話や説明がすんなりと耳に入るのが、うれしくてたまりませんでした。ホストファミリーが家族として受け入れてくれて、前に住んでいたことがあるのかと錯覚するほどダルズでの生活になじみました。学校見学では音楽の授業に参加し、得意のサクソも演奏することができました。教室の雰囲気が違うのでとても新鮮で、映画の中にあるような気分でした。来年、チャレンジできる機会があれば1か月の留学をしたいと思ひ、帰国後、英会話教室にも通い始めました。「離れていても家族だよ」と言ってくれたダルズの家族のためにも、もっと勉強して自分をしっかりアピールできるように英語を学びたいと思います。

(井川中学校 2年 長澤 羽楽)